

餘曲十六譜曲、曲俗、詩舞、歌軍、歌唱

上村雪翁先生著

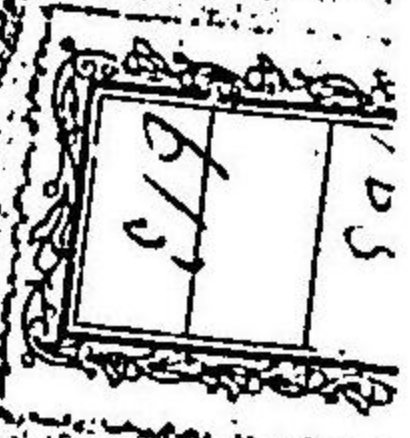
音 譜 正 確

# 尺 案 獨

版 權 所 司

大 阪

天 島 誠 進 堂 藏



尺八獨稽古序

尺八ハ琵琶、横笛、篳篥、洞簫、羯鼓ナド、其ハ漢以  
 後ノ樂器ニシテ唐ノ玄宗ノ之ヲ好ミ專雅樂ニ用ヒ  
 ダリシト云フ我朝ニ於テハ聖德太子中華ノ樂ヲ求  
 メテ數多ノ伶人ニ是ヲ習ハシメ以テ朝廷ニ用ヒラ  
 ルサレバ今尙ホ南都法隆寺ニ聖德太子ノ吹キ玉ヒ  
 シ尺八存シ其長サ一尺八分アリ故ニ之ヲ尺八ト云  
 フ以來其法亡ヒタリシナ後白川天皇ノ世ニ之ヲ再  
 興セシガ再ヒ絶ユ小田原記ニ北條幼庵尺八ヲ製ス  
 ルニ巧ナリ幼庵斷トテ一節斷ノ尺八都鄙ニ流行シ  
 ツ禁中ヨリモ御所望アリシト見ユ又 後陽成天皇  
 御宇文祿年間大森宗勳出テ、五調子ノ尺八ヲ作  
 リシ以來法ヲ宗勳ニ取レリ又徳川幕府ノ世ニハ開  
 祖普化禪師ノ流ヲ波ム普化宗ノ僧尺八ヲ以テ讀經  
 ニ兼テテ之ヲ常人ニモ傳ヘタリ正徳年間ニハ一  
 節斷ト云フモノ流行ス是幼庵斷ト等シキモノニシ  
 テ竹ノ節チ一ツ込ムル故ニ斯ク名クサレバ節チ三  
 ツ込ムルチ三節斷ト云フナリ太宰春台曰彼ノ虛無  
 僧ノ吹ク物チ尺八ト云フハ誤ニシテ彼レハ洞簫ノ  
 類ナリトサレバ今日用フル處ノ尺八ハ一節斷ヨリ  
 轉化シ來リシモノナランカ开ハ兎モ角凡ソ音樂ハ  
 妙ニ人ノ心ヲ感動セシムルモノナリ故ニ淫樂ヲ聽



(一)

ケハ心蕩ケテ淫佚ニ流レ雅樂ヲ聽ケバ正クナリテ  
 中和ニ合フ是天然ノ妙ナリ孝經ニ移シ風易俗莫善  
 於樂ト云ルハ淫樂世ニ行ハルレバ民ノ風俗頽レ  
 雅樂世ニ行ハルレバ民ノ風俗正クナル事古今是同  
 シ風俗ヲ移シ易ルモノハ樂ナル故風俗ヲ保ツモノ  
 モ又樂ナリ尺八ノ音ノ妙ナル又雅ナル蘇子既ニ赤  
 壁ノ賦ニ謂ヘリ今ヤ此尺八ヲ以テ明清樂ニ合奏シ  
 甚シキハ三絃ト合奏シテ俗歌ヲ吹奏スルニ至ルサ  
 レドモ能ク某雅樂ハ三絃俗歌ノ淫聲ヲ掩ヒ反ツテ  
 淫聲ヲ摠梅シ以テ移風易俗ノ効ヲ奏ス故ニ世人益  
 々尺八吹奏ノ嗜好ヲ増スニ至レリ茲ニ於テ雪翁既  
 ニ耳順此器ノ妙手近頃世ニ流布スル尺八ノ譜ノ粗  
 雜ニシテ諸流混交シ初學者ヲシテ執流吹奏ニ迷ア  
 ラシムルヲ歎キ翁ガ一流ノ吹奏譜ヲ作ラレ斯道嗜  
 好ノ初學ニ便セント書肆ニ命シテ此符ヲ活字ニ印  
 シ予ニ示サル予探テ他書ニ比スレバ正確又三絃ノ  
 合奏ヲ聽クニ律呂適節毫モ完全セザル處ナシ翁ノ  
 自ラ責ヲ負フテ立タル、價值此書ノ上ニ明カ實ニ  
 斯道初學ノ寶書ナリト信ズレバ聊カ尺八ノ沿革ヲ  
 記シ以テ序ニ代フト云爾

明治廿八年閏月中津實苗雅兄〇〇君之書室ニ於テ

天民 川原閑舟謹誌

本書は充分初學者獨習の便に供せん爲總て予が  
 家符を以て長短緩急振曲の音節を示し他書に勝  
 るるとも怠らざるの結構を以て記述したれば遺憾  
 なきも如きも素と尺八吹奏の技たる彼の讀書算  
 數習字の如く獨習以て能く其秘奥に達するは難  
 し必ずや此技に熟達したる師の薰陶を受けざれ  
 ば清明なる竹音の調程を亂し表裏諸曲其他外曲  
 の妙音を吹き得ざるものと予や今茲に書肆の  
 需を納れ此書を公にすと雖も是當時流行の俗曲  
 に合奏したる卑近の曲に十數番の秘曲を併せ載  
 せたるのみ故に本書の全部を吹奏し得るを以て  
 足れりとする勿れ學者若し其の秘奥を極めんと  
 欲するものゝみならず苟くも本書載する處のも  
 のなるも吹奏し難しと思惟せば一步の勞を吝ま  
 ず予が茅庵を訪へ予は責を負ふて親しく教授せ  
 ると吝かざるべし初學者必らず師を竣たずして  
 秘奥を極め得るものと誤解するなからんことを  
 當に此書は尺八吹奏の端緒を開くものと解して  
 可ならん聊か一言して初學者に告ぐ

難波小澤橋畔 六歌仙上村雪翁謹述

凡例

(四) 一本書ハ三絃ニ合奏スベキ尺八吹奏ヲ獨習セシ  
ト欲スル有志者ノ爲ニ編述シタルモノナルガ  
故理論ノ如キハ之ヲ省略シ專ラ實地應用ニ便  
スル方法ヲ以テ記號ヲ符シタリ又端歌雜曲ノ  
如キナ吹奏セシムルハ固ヨリ本旨ニ非ズト雖  
モ時ノ流行ニ伴フノ方便ノミ識者以テ深ク允  
ムル勿レ

一尺八吹奏ヲ獨習セント欲スル者ハ先ツ十二律  
ノ吹奏法ヲ練習シ次ニ符號ヲ記シ豫メ歌譜  
ノ曲節ノ大要ヲ會得シ置クヲ要ス而シテ其發音  
ノ緩急及高低長短ハ各笛聲ヲ示ス譜ノ右傍又  
ハ中間ニ挿記シタル記號ニ因テ了知スベシ  
一本書歌曲中地方ノ訛音等ニ因リ多少曲節ヲ異  
ニスルモノアリ假令彼ノ追分節又ハ流行歌ノ  
如キモノ予ハ是等ニ對シテハ大体ノ要點ヲ採  
リテ作曲シタレハ其曲節ノ細點ニ至テハ各地  
方人ガ歌唱ノ訛音ニ基キ酌量加減シ以テ其曲  
節ニ合奏スベシ

○十二律譜表説明

五 四 三 二 一

一越

●●●●●  
●●●●●  
●●●●●

ハ尺八の孔を尽く  
塞ぎて發する音なり

平調

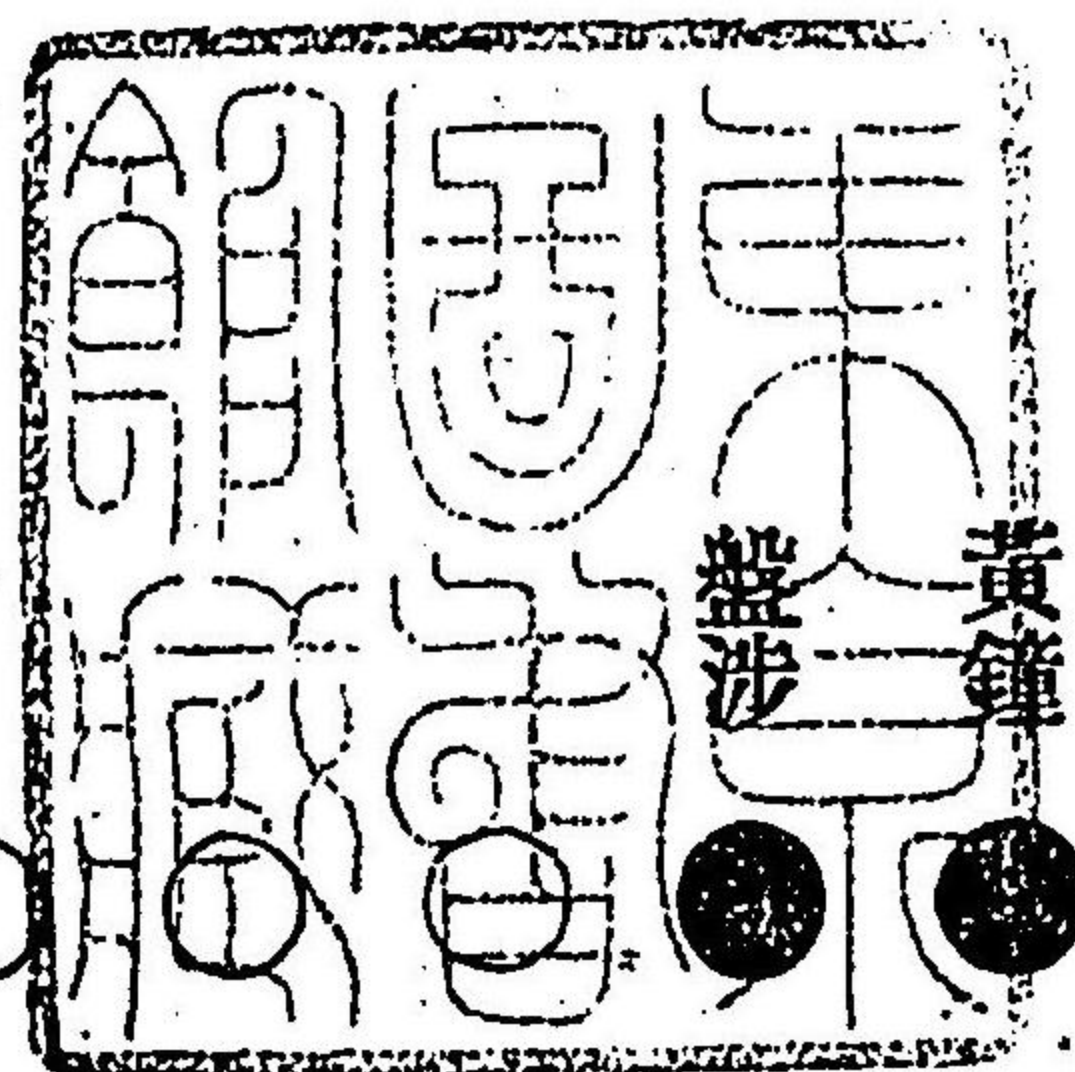
●●●●○  
●●●●○  
●●●●○

ハ一の孔を開きて  
發する音なり

双調

●●●○●  
●●●○●  
●●●○●

ハ一及び二の孔を  
開きて發する音なり



黄鐘

●●●○●  
●●●○●  
●●●○●

ハ一、二、三の三孔を  
共に開きて發する  
音なり

盤涉

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ二、四、五の三孔  
を共に開きて發す  
る音なり

イ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ三、四、五の三孔  
を共に開きて發す  
る音なり

ヒ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ四、五の二孔を  
共に開きて發する  
音なり

タ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ一、二、三の三孔を  
共に開きて發する  
音なり

ラ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ一、二の二孔を  
共に開きて發する  
音なり

ル音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ一、二の二孔を開き二  
の孔のみを一回軽く食  
指みて打ちて發す

レ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ一の孔を無名指  
にて軽く一回打ち  
ちて發する音なり

ロ音

○●●○●  
○●●○●  
○●●○●

ハ一の孔を無名指  
にて軽く一回打ち  
ちて發する音なり

(五)

右一平双黄盤を五調子と云ひ以下斷勝下、  
覺神上を七調子より生出するものと知る  
べし

音符

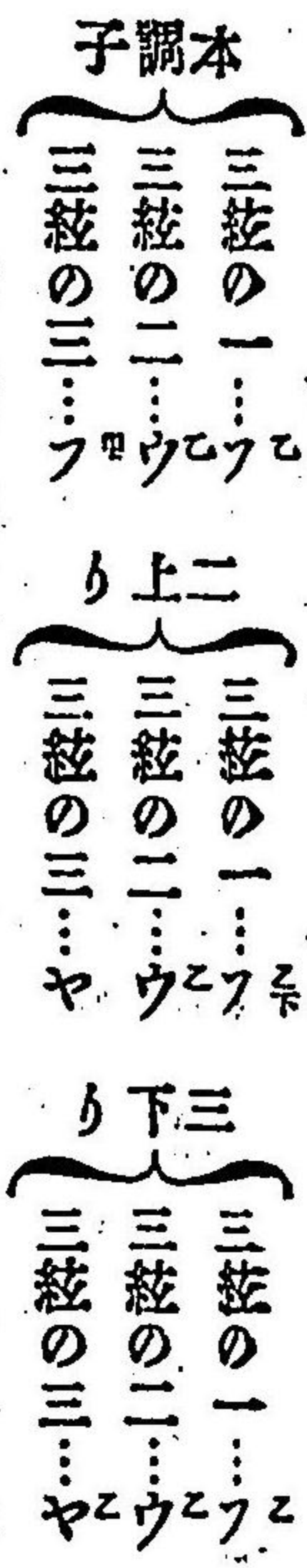
音符とは發音の緩急長短高低甲乙を示す記號な  
り左に示すべし

- ▲ 此符は合の手を示す合符ものなれば其他は總て歌なりと知れ
- ┌ 此符は吹聲を搖るの合符なり
- └ 此符は音を早く吹くの合符なり
- 一 此符は音を引くの合符なり
- 此符は音をキザム合符なり
- ◎ 此符は半開符として孔を全く開かずして半指を下方に外して乙に吹く合符なり
- ⋯ 此符は連續符として續け速打の合符なり
- フツ 此符は乙音を示す譜標なり
- 甲 此符は俗にカンと云ひ音の高きを云ふ故に特に呼吸を強めて吹く合符なり
- 乙 此符は俗にオツと云ひ音の低きを云ふ故に特に呼吸を弱めて吹くの合符なり
- 此符は休止符にて休み止まるの合符なり

○ 此符は緩休止符として休止符とは少し長く  
休み止まるの合符なり

合曲調子

尺八に合奏すべき樂器數種ありと雖も琴、三絃、  
胡弓の三曲に合奏するを例とせ此三曲に用ふる  
は一尺八寸の尺八を以てすれば音調共に相適ふ  
なり今三絃の調子に合はすべき調子の譜を左に  
示す



○ 此他に種々替り調子ありと雖も并は實習に譲りて茲に略す

尺八吹奏法

尺八を吹奏するには尺八の構へ方と持様を心得  
べし其持様は右手にて尺八の下部を持ち左手に  
て其上部を持ち右手の無名指にて一の孔を塞ぎ  
同じく食指にて二の孔を塞ぎ左手の無名指にて  
三の孔を塞ぎ同食指よて四の孔を塞ぐべし而し  
て裏孔は左手の拇指にて塞ぐべし左右の中指と  
右手の拇指は尺八の全体を堅く持たして毫も動す

(八)

べからど  
尺八の構へ法は尺八を唇邊へ軽く當て舌頭にて  
歌口を濡し尺八の下部端を膝頭の前へ下げ舐の  
屈曲せる様端坐し下腹へ充分力を込め全体を動  
めさぬ様構へ首を軽く打振り呼吸氣息は自然に  
咄出し音調に隨て軽く開塞すへし  
尺八の内部に水氣の滯溜せるときは其音を變そ  
るものなれば時々之を拭ひ去るへし

●本曲

本曲とは他の樂器に合奏することなき古傳の諸  
曲と云ふ從來は専ら吊祀の法筵或は追薦の爲め  
靈魂を慰むるに吹奏したるものなれば斯道の  
名手是と吹奏せらるゝと聴くときは實に音調清  
雅にして高尚優美なる者故に左に其曲名を示  
ん

●古傳の三曲

霧海篋鈴慕 虚空鈴慕 眞虚靈

●本曲名目

鉢返調 瀟落曲 秋田管垣 轉管垣 九州鈴慕  
志圖曲 京鈴慕 盤涉調 琴三虚靈 吉野鈴慕

榮獅子。打替虚靈。葦草鈴慕。伊豆鈴慕。鈴慕流  
シ。下野虚靈。目黒獅子。吟龍虚空。佐山管垣。  
三谷管垣。下り葉曲。波間鈴慕

●秘曲

巢鶴鈴慕 鹿遠音 曙調子 雲井調子

以上諸曲を本曲とは稱するなり

●尺八製作の心得

尺八は此術に老練なる人にあらざれば良器を製  
出すること難きや論を竣たざれども誠に製出せ  
んと欲せる人なきにあらざるべければ今其製法  
を左に示すべし

尺八を製作せんと欲すれば先づ上下に節を存し  
成べく兩節の間に五個の節を籠めて七節となる  
べくして總丈一尺八寸に満ち而して其周圍は三  
寸位筒内の廣さ上部歌口にて直徑六分五厘位下  
部にて六分位尙ほ歌口より筒内を通視して末口  
の孔殆んど半月形に見ゆる如く灣曲したる適度  
の竹を撰むべし

九

尺八の孔の大小と長短は其發音に關係を及ぼす  
ものたれば孔の大小は竹の長短に應じ竹の長短  
は太さの細太に比例して鑿るべし且つ孔は不同

なき様一整にすべし

十 尺八は内部の節抜きは三尺位の長さなる鐵拵の尖に刃を附けたるものを以てし充分に滑澤ならしむるを要す

●目録

●十二律譜表説明	五丁	●音符	六丁
●合曲調子	七丁	●尺八吹奏法	七丁
●本曲	八丁	●尺八製作心得	九丁
●竹調	十三丁	●高イ山	十三丁
●十日戎	十三丁	●あさくとも	十四丁
●わづもの	十四丁	●忍ぶ夜	十五丁
●夕暮	十六丁	●わづこひ	十七丁
●京の四季	十八丁	●東京玉川	二十丁
●ぐち	二十丁	●松づくし	廿二丁
●黒髪	廿四丁	●春雨	廿五丁
●鶴の聲	廿七丁	●菜の葉	廿八丁
●めよふ神	廿九丁	●御所車	三十一丁
●福壽草	三十二丁	●萬歳	三十三丁
●ごすのと	三十七丁	●袖の露	三十九丁
●ゆき	四十二丁	●落し文	四十四丁
●八千代獅子	四十五丁	●たけぞぶし	四十九丁
●大津繪ぶし	四十九丁	●せつせぶし	五十丁
●仙臺節	五十二丁	●すいりよぶし	五十一丁
●米山じんく	五十二丁	●ゑんかいな節	五十二丁
●梅ヶ枝	五十三丁	●金比羅舟々	五十三丁
●丹後の宮津	五十四丁	●一ツとせぶし	五十四丁
●追分節	五十四丁	●どんくぶし	五十五丁
●琉球ぶし	五十六丁	●いよぶし	五十六丁
●あさとして	五十七丁	●きやりぶし	五十八丁
●君ヶ代	五十九丁	●今様	五十九丁
●夕ぞら	五十九丁	●玉川	六十三丁
●後越獅子	七十丁	●鶴の巢籠	七十七丁
●本曲鈴暮	八十二丁	●劍舞詩	八十三丁

# 尺八發賣廣告

京都侯野尺八



極上	壹本	付金參
壹等	同	金二圓五十錢
二等	同	金二圓
三等	同	金壹圓五十錢
四等	同	金壹圓廿錢
五等	同	金壹圓十錢
六等	同	金八錢
番外	同	金六錢



# 篠笛發賣廣告

◎運送料全國平均拾八錢申受候  
右今般地方各位の便利を計り發賣仕候最も御注文の向は音色の善良なるを割損しなきとを取調差送り可申候間續々購求を乞ふ



# 京都侯野篠笛

眞龍製造

總藤卷黒漆塗

正價 金八拾五錢

前後藤卷黒漆塗

正價 金六拾五錢

◎運送料全國平均

拾八錢申受候

# 賣捌元

白竹

大阪心齋橋  
順慶町北入東側

# 矢島誠進堂



◎竹調たけしら

ウ○グ○ヤフ○ヤイヤフ○甲ホウ  
ロエホフヤイヤフ○フヤエウ○甲タ  
ヒヤヒヤエウ○ブ○

◎高山たかやま

フヤフヤエウエヤフ○フホフヤフヤ  
エヤフ○フヤフヤエウエヤフ○ホ  
フヤエウ○エエウエホホウ○ヤエ  
ウエホホウ○

◎十日裁とっぴちざい

フフホウウホウヤエウホフ○フホフ  
ヤエウエエエフ○ウホウホフ○ホ  
ウホウエヤフヤフホホフ○フフヤヤ  
エエウエエエエフ○合▲ヤエウ○ホ

(三十)

(四十)

ホホウエエウホ ホホウエエウホ フヤイヤエヤウ フヤイヤエヤウ

◎ 何ぞとんぼを 本調子

ホウホフヤイヤフホフ○ ホウホフヤイヤフホフ ▲フホウヅ

ウ○ ホウウホウウエ ○ エウホフヤエ

○ 合▲ヤフホフ フフフ○ ヤフフフ

ヤヤエ○ ウエヤウホ ○ 合▲エウエウエ

ヤエエエエエ○ エエエ ○ エエウ

ウエウエホフヤ○ ヤフフウヤウホフヤ

エヤフフフフフ 合▲フホフホフホフフ

フフウ○ エエヤフフウウホウヅウ

◎ かをれ 本調子

ホウエヤフホウ▲エウエ○ ウエホエエ

○ 合▲ホホフ ヤイブ○ ウホフフヤエウ

合▲ ホロホロウエウエウ ○ ウエヤウ

ホ○ ホウエウホフ 合▲ ヤイブ ○ ヤエヤ

フヅヤヒヤエウウ 合▲ヤヒヒヒエエ ○ フ

エエ○ ヤエエホウウフ ○ ウフフ

ヤフ○ ヤエエヤフ ヤフ○ ウフヤフ

ヤフ○ 合▲ヤフホウエウフ ウフフフ

合▲ ウエウ ○ 合▲ヤエウウホウエ ○ ホウ

フヤフ 合▲ヤフホフフ ○ ヤフフフ

ヤエウ 合▲ホウ ○ ヤエウウホフヤ ○

ホウホフヤエウ エ エウホヤフ 合▲ ホフ

ブヤフ

◎ 志乃ぶ夜 本調子

ホウエヤフホフヤエ○ ヤエ ○ ウホ

ウホフ ホヤフフ 合▲ フフホフフ

ウフヤエウウホフ ブヤ フフエエウホウ

(五十)

(六十)

ホフヤフウ。 ヤフホウホフヤエ。 ヤ  
 エエフホウ。 合▲ヤエエフホウヤエウホウ。  
 エエウウホフホ。 ヤフヤエフウウウ。  
 合▲ヤフホフウウホフ。 ヤエヤエヤフ  
 ホウホフフフヤフホホホフホフヤヒヤエ  
 ウウホフフヤフホウホフヤエ。 ホウヅ  
 ウエウヅウ。

◎タぐれ 本調子

「タぐれ」 エエウウエブヤ。 フフヤイヤフ。  
 エヤエウヤフヤイヤフ。 ホホフヤイ  
 ヤエウ。 合▲エヤフヤイヤフフフウ。  
 ヤフフブホフフフ。 ホフフフヤヤエ  
 合▲ウエ。 ヒヤエウエヤエウ。 合▲ブウ  
 ウフフブヤフ。 ウウヅ。 ウウヅ。 ウ

(七十)

ウヅ。 ウウヅ。 ホウエウウホフヤフホ  
 ウヅウ。 合▲ヤエエエヅボウウホフ。 ヤエ  
 ▲ヤフホ。 ホホホフヤ。 ヤフホウホ  
 フフヤエウ。 合▲ホウヅ。 ホウヤエウ  
 ウホフヤフホ。 エホホブフヤフ。 フフ  
 フ▲フヤヤエフヤ。 ヤヤヤヤエヤウウヤ  
 エウホホブ。 ホウエヤエヤフウホホホ  
 ウホウフヤエウ。 一ホウヅウ

◎ミかみ 三トモ

ホウホフヤエヤホホホフ。 合▲ヅヅホウ  
 ヅウ。 ホウウウウ。 ホウエエウホ。  
 合▲ホフホウ。 エウホウホフヤ。 合▲ヤエ  
 ヤフ。 ホホホホ。 ホウヤフホフヤエ  
 合▲ヤエエ。 ヤエエウホウホフ。 ウホ  
 合▲ヤエエ。 ヤエエウホウホフ。 ウホ

ホウエウホ。ホ。ホホヤフ。ホウエヤ  
ヤフ。ホフホヤヤフ。

◎ 系の四音 本調子

○ ウホウホフブヤイヤフ。ウホウホフ  
フホウ。エウホフホウ。エエウウ  
ホフヤ。ホフ。エウエウエ。エホ  
ホウエエウエ。ヤビヤエウエヤエウ。  
ヤエウホフホホホ。ホウホウ。ウ  
エウホフ。ヤイヤフ。エウホ。ウ  
ホウエウウホフヤイヤフ。ウホウフ  
ブヤイヤフ。ウホウフブヤイヤ。ホ  
フヤフヤイヤフ。エウホイヤ。ブホ  
○ ホウエエヤヤホヤエ。エフウウエ  
ウホフ。ウウウウウホウエ。

○ ウエウエホフヤ。ウホフヤ。  
エヤヤフヤビヤエウウホフヤイヤフ。  
ウエホホフヤイヤエウ。ホヤエヤフ。  
合△ ウホウフブヤイヤフ。ウホウフブ  
ヤイヤフ。ホフヤフヤイヤフ。ホウ  
ホフホフヤ。フヤフ。ヤビエヤビヒ  
ヤ。エフウウエウホフ。合△ ヤイヤエ  
ウエ。ヤエエエ。エエウ。合△ エウホフホ  
ウ。ヤエエウウホフヤ。ホウホウホ  
フヤエウヤフホ。ホウ。エウホフヤ。  
ヤフフホフフフ。ヤフエフフヤヤエ  
合△ ウエ。ヤヤエ。ヒヤヤエウ。ウ  
エウエホ。ホウエ。ヤエウウホフヤ  
合△ ヤフホ。ウホフヤ。エヤエヤ

エウウホフヤイヤフ。 ウエホホフヤイ  
ヤエウ。 ホヤエヤフ。 合▲ホフブヤフ。

◎ 本系玉川

本満子

ヤフホウフエヤエウウ。 合▲ホウヅ。○  
ホウウフフフヤイブ。 ヤフホウフ。  
エヤエウウ。 合▲ホロホロウエウ。 ウ  
ウウウエホホエウウホフヤフ。 合▲ヤエ  
ヤエエウ。 ウエエウエヤヒヤエウ。○  
合▲ウフホウ。 エエウホイヤ。 合▲ヤフ  
ホヤフフフッレエウホフホフホフ。 フ  
フフ。 フフフホフヤイヤエウ。 合▲ホウエ  
ウホウエウエ。 合▲ヤフヤフ。 ヤエウウホ  
フ。 合▲ホウ。 ヤエエホウウウ。

◎ ぶ

ち

本満子

ホエエウウホフヤ。 ヤヤエ。 ホフヤ  
イヤフウ。 合▲ブフヤフヤフホウヅエウホ  
フウ。 ホエエヤヒヤエウホウ。 エウ  
ウホフヤフヤエ。 合▲ヤエヤフ。 ウウウエ  
ウホフフウホウエヤ。 ヤヤエウホ。  
ホヤフヤエウヤエ。 合▲ブヤフ。 ヤフホウ  
エ。 エヤウウホフホウエ。 合▲ヤエウ。○  
エウホ。 ホホホフウフヤエウホウ。 合▲ヤエ  
エホホヤエエヤエウ。 ヤフヤホホフヤフ  
フウウフホウエ。 ヤエエエホフヤエウ  
ヤヤ。 ヤフウフヤエ。 ヤエウホフ。 合▲ホ  
ウホフウホフヤエ。 エホウホフウエ。○  
ヤエエエウエウフエエ。 ホウフフフ。 合▲  
フホウエウエウ。 フホウ。 エエウホフフ

○ ホフブブフヤフウフホウエ。 ヤエ  
 エエホフヤエヤヤ。 ヤフウフヤエヤエウ  
 ホフ<sup>合</sup>ホフホフウホフヤエ。 エホウホ  
 フウエ。 ヤエエエエウフエエ。 ホウフ  
 フフ<sup>合</sup>フホウエウエウ。 フホウエエウ  
 ホフフ。 ホフブブフヤフ。 ウフホウヴ  
 ウ

● **ねづみ** ニエ

エヤフホウヤエヤフフヤエウホウ<sup>合</sup>ホフ  
 ○ ホホフホウホウエウエ。 ホウホフヤ  
 エ。 エヤフホウヤエヤフフヤエウホウ  
<sup>合</sup>ホフ。 ホホフホウホウエウエホウホ  
 フヤエ。 エヤフホウヤエヤフフヤエウ  
 ホウ。 <sup>合</sup>ホフ。 ホホフホウホウエウ

エホウホフヤエ。 エヤフホウヤ。 エヤ  
 フフヤエウホウ。 <sup>合</sup>フヤ。 フホウホ  
 ヤフヤエウエヤフホウ。 <sup>合</sup>ホフ。 ホホ  
 フホウホウエウエ。 ホウホフヤエ。 エ  
 ヤフホウヤエヤウフフウ。 <sup>合</sup>ホフ。  
 ホフフヤフホホフフエウエホウホフヤ  
 エ。 エヤフホウヤエヤフフヤエウホウ  
 ○ <sup>合</sup>ホフ。 ホホフホフヤホウエエホ  
 ウホフヤエ。 エヤフホウヤエヤフフヤ  
 エウホウ。 <sup>合</sup>ホフ。 ホフフヤホフフ  
<sup>合</sup>ホフフ。 エウエホウホフヤエ。 エ  
 ヤフホウヤエヤフフヤエウホウ。 <sup>合</sup>ホフ  
 ○ ホフフヤ。 ホフフヤフホホフホ  
 ウホ。 ウエヤエホウホフヤウホフウヤ



三十一

エヤエウ。ホエウホフヤエヤフエヤ  
 ヤフホフヤイヤエウ。合▲ホウ。エエエ  
 ヤフヤイヤエウ。合▲ホウ。エヤエウホ  
 フヤイヤフフ。合▲エヤフホフヤフ。  
 ホ。ホホエウホホフ。合▲ヤイヤフ。  
 ウホウホフホヤフヤエウ。合▲ホウ。  
 ヤフヤイヤエウホ。ホウウエヤエ  
 ホフホウウ。合▲ホロホロウホフ。エエ  
 ウ。エエウホエウホフホヤエエ。ヤ  
 エヤフウホフヤイヤフフ。合▲フフフ  
 フフヤエ。エヤフヤエウエウ。ヤ  
 ヤヤヤヤヒヤエウ。エウホホウエウエ  
 ウウウウエ。ホホホホフホヤフヤエ



三十二

ヤイウウホフ。フフフホウホフエヤフ  
 ホフヤフ。ホホホエウホホフヤエヤフ  
 ホフホヤイヤエウ。エウホフ。合▲エ  
 ホ。ホウヤエヤイヤエウ。合▲ホウ。  
 ヤエウホフヤイヤフフ。合▲ホフヤイヤ  
 フ。ヤヒヤイヤエウホウエウエ。  
 ヤエエエエエウ。合▲ホウ。ヤエウホウ  
 エウエ。ホウホウホフ。合▲ヤヤフ。  
 ヤフホウエウエ。ヤフホウフフヤエウ  
 合▲エヤ。フヤエフヤエウホウホフ  
 合▲ヤイヤフフウホフフヤエウ。ウ  
 ホウ

ホウエウホフヤ。合▲フホウエヤフヤエ

ウホ。 ウホフフエヤフウホフヤ。  
 ヤフヤエエ。 フヤイヤエウホ。  
 ホウホウエヤエウ。 合▲フホウエウ。 合▲ホフホウ。 ヤエ  
 ウウウヤエウホ。 合▲ホフホウ。 合▲ホフホウ。 ヤエ  
 エウホフヤ。 合▲エヤ。 フフホウホウ  
 ホフヤフ。 フフフフウ。 ヤエウホウ  
 ホフヤ。 合▲エヤ。 フフヤエウホ。 合▲エ  
 ヤヤヤエヤヤヤヤヤヤヤエウ。 エヤ  
 エウフホホホウ。 ホホフホホフ。 フ  
 ホウホウホフヤ。 エヤエヤエウホ。  
 ウホウエヤヤ。 フフフヤヤエヤエ  
 ウホ。 ウホフ。 合▲フヤエ。 エヤフホ  
 フヤイヤエウホ。 フホフエエエヤエウ  
 ウホウウウ。 ホウウエヤエウホフ  
 合▲ウヤエヤフホフホウホフ

響の聲

本調子

ホウウウウ。 合▲ウヤエヤフホフホウホフ  
 ヤ。 ヤエウエウエウホフヤ。 エヤフ  
 ホフホウエウホフヤ。 エエ。 エエ。  
 エヤエウホフヤ。 エヤエヤエウ  
 ホホウホウ。 エウホウヤエウホウホウ

ヤフホフヤヤ。 エヤフヤホホフ。  
 ホウエウエホフヤヤ。 エヤホフヤイヤ  
 エウ。 合▲ヤエヤエヤエウホ。 ウホフホ  
 ウエヤイヤエウウ。 ホウウホフホ  
 ヤイヤフ。 ヤフホウエタヒヤイエウエ  
 ホフヤ。 合▲ウエ。 エヤエヤフフホウ  
 ホフヤフ。 合▲ヤイヤフ。 ヤイヤエウエ  
 ホウホフヤエエ。 ヤエエ。 合▲ヤイヤフ



○ ホホフホフウホフヤ ▲エヤイヤ  
 フホウエヤヒヒヤフホホフホフヤヤ  
 ヤ○ エヤイヤエウウエヤエウホフヤイ  
 ヤフ○ ヤイヤエウウフホウ○ エエ  
 エエヤヒヤエウホロウエウホ○ ウホ  
 フヤフウホフヤエウ ▲ウエ○ エヤエ  
 ヤフホウウウ○ ヤフホウエウホフホ  
 ウホフヤイヤフ

◎葉の葉

ニ上

ウヤエウホ ▲ホフホウ○ エウホウエ  
 ウホ○ フフフヤエヤヤ○ フフウ  
 ホフヤエヤフ○ ホフヤイヤエウホ ▲  
 ホホホヤヤエウウ ヤウウホウヅウウ○  
 ホウホウエウホフフ○ フホウホフヤ

△エヤ○ ホフヤホフヤウエヤフ○  
 ホフヤイヤエウホ ▲ホホホヤヤエウウ  
 ヤウウ ホウヅウウ○ ホウエウホフフ  
 ○ ウホフフフヤエエ○ ヤフフヤフ○  
 ホフヤフヤエヤフ○ ヤエエウホ ▲  
 エホホエホホエホウホフフ○ ホフフヤ  
 エウホフヤ ▲エエ○ ヤフフフヤエエ  
 ▲フエエフエエフエヤフホウウウ○  
 ホウエホフフ○ ホフホウエ○ エウ  
 ホフフホフヤ○ フヤフヤホフヤエウ○  
 ヤウウヅエウホフヤエヤ

◎かまふ神

本調子

ヤフフフウホフヤフヤイヤブ○ ホウホ  
 フホフヤフ○ ウホホフヤ○ エヤヤフ

(十三)

フ。エエウホイヤエヤ。ホフホフヤ。  
 ○ エヤフホホ。合ウエエウエホ。  
 ウホウホフヤ。ヤイヤエヤホウヴエウ。  
 ウ。ヤフホウヴウエウホホホウ。  
 ヤエウホフウホフヤイヤフフ。エヤ  
 エヤフフ。エエウホイヤ。エヤフホ  
 ホフホホ。合ウエエウエホウホウホフ  
 ヤ。ヤイヤエヤホウヴエウ。ヤフホ  
 ウヴウエウホホホウ。ヤエウホフウ。  
 ホフヤイヤフ。合ホフヤ。エヤヤエ  
 ヤエヤ。ホフヤエヤフヤエウ。ウホ  
 フヤイヤフホウウウ。ホウウエヤフ。  
 ホウエウホフヤ。合エヤヒヤイヤエエ  
 ヤヒヤエウホフヤフフウホフ。ホホ  
 合ホホホフ。ヤフホホホホフホフヤ。  
 エヤヤエヤエヤホフヤエウ。エヤフヤエウ  
 合ヤフホヤフホホウウウ。ホウエエヒ  
 ヤエウホフヤエウ。ヤフホウエウホフ  
 ヤイヤフ

御車

ニ上

(一十三)

エヤヤエウエヤホホイヤ。合ホウヴウ  
 ○ ホウウウエウホイヤ。イホウエ  
 ウホフヤヤ。ホフヤエヤエヤホフヤイ  
 ヤエエウ。エヤエウホフヤ。エ  
 ヤホフフヤエヤヤ。合ホフヤエヤフ。  
 ヤフ……ホホフヤエエ。ヤエホウホフ  
 ヤ。合ホウ。ウホフヤエ。エヤフヤ  
 エウホウ。合エウホホウホイ。エホホ

(二十三)

フブホフフフフフフフヤエヤホフヤエウ  
 ○ ホブブ○ フホフフ○ フフフフ○  
 フホホホウウウエヤヤヤ○ ヤヤヤウ  
 ホウ○ ホウホイヤ ホウヅウ○ ホウ  
 ウウウウ○ ホウエヤエウホブ○  
 ホホホホウホイヤ○ フホフヤホ○  
 ウホフフフ○ エホフヤヤエウホホ  
 ウエ○ ▲エウエエエエエウウホフ  
 ヤホウフフフ○ ヤフフフフヤエ○  
 エヤフホウエヤエウ ▲エヤ○ ヤフホ  
 ヤエエヤエウホフヤホ○ ホウホウエウ  
 ホフホウヤエヤ  
 ● 福壽考 ● 二上マ  
 エヤヤエウウエヤホフヤ○ ▲フホ○

(三十三)

ウホウホフウホフヤエヤエウ○ ホウエ  
 ヤホフヤヤ ▲ホホウエウフホウウフホ  
 ウ○ ウウフホウホウ ヤエウエウホホ  
 ▲ホホホフヤフヤホホホフヤフヤ○  
 ヤエエエヤヤヤ フホフエウホフホフ  
 ヤ○ ヤエウ○ エエエヤエエエウホフ  
 ○ ホウエウホフヤ○ ホフ ▲フホフ  
 ホ ○エウホウホフヤエウホ○ ホウホ  
 フヤフエヤ  
 ● 考 ● 歳 ● 二上マ  
 フホウエヤエウホウ○ ウエヤエヤウ○  
 フホホイヤエヤエウ○ ホフホウ  
 エヤウ○ フフフヤフフフヤエヤフヤエ  
 ● ▲エヤウ○ フフヤホホウ○ エウ

エホホウホイヤ ○ エヤウヤヤウ ○

ホフフヤフエエヤ ○ フホウホイヤエウ

合▲ホウ エヤフ ○ ホフヤエヤエウホ

ウウ ○ 合▲エウエホホイイ ○ ホホイイ

ホイイホイホイホロ ○ 合▲ホロホロホ

ロホウ ○ 合▲エウエホホウイヤ ○ フホフ

ヤウフフ 合▲ホフフフヤエヤフ ○ 合▲ホ

フフヤエヤフ ○ 合▲ホウヤエウホウ ○ ヤ

エウホウエヤフ ○ 合▲フホウホフフヤエ

ウウ ○ 合▲ホフホウエウエホホウホフ ○

合▲ホフホフヤ ○ 合▲ホフウヤエウホウ ○

合▲ホフヤフ ○ 合▲フフフヤエウホフヤ

ヤフ ○ 合▲フホウホフホフホイヤエウ ○

合▲ホフフヤエヤ ○ 合▲ホウホフフホフヤ

合▲ホウ ヲヤフ ○ 合▲ホフフフヤエヤフ ○

ウウ ○ 合▲エウエホホイイ ○ ホホイイ

ホイイホイホイホロ ○ 合▲ホロホロホ

ロホウ ○ 合▲エウエホホウイヤ ○ フホフ

ヤウフフ 合▲ホフフフヤエヤフ ○ 合▲ホ

フフヤエヤフ ○ 合▲ホウヤエウホウ ○ ヤ

エウホウエヤフ ○ 合▲フホウホフフヤエ

ウウ ○ 合▲ホフホウエウエホホウホフ ○

合▲ホフホフヤ ○ 合▲ホフウヤエウホウ ○

合▲ホフヤフ ○ 合▲フフフヤエウホフヤ

ヤフ ○ 合▲フホウホフホフホイヤエウ ○

合▲ホフフヤエヤ ○ 合▲ホウホフフホフヤ

合▲ホフフヤエヤ ○ 合▲ホウホフフホフヤ

合▲エヤ ○ 合▲ヤエヤフホフフヤエヤエウ

合▲エ ○ 合▲エヤヤヤフヤエウエヤフ ○

合▲ホウホフホフフヤエヤエウホウ ○ エヤ

フホフフヤエヤエウホウ ○ 合▲エエヤフホ

フフヤ ○ 合▲ホホホホホホイイ ○

合▲ホウヅウウ ○ 合▲ホウウウウエウホフヤ

合▲エヤ ○ 合▲ヤエヤフホフフヤエヤエウ

合▲エ ○ 合▲エヤヤヤフヤエウエヤフ ○

合▲ホウホフホフフヤエヤエウホウ ○ エヤ

フホフフヤエヤエウホウ ○ 合▲エエヤフホ

フフヤ ○ 合▲ホホホホホホイイ ○

合▲ホウヅウウ ○ 合▲ホウウウウエウホフヤ

合▲エヤ ○ 合▲ヤエヤフホフフヤエヤエウ

合▲エ ○ 合▲エヤヤヤフヤエウエヤフ ○

合▲ホウホフホフフヤエヤエウホウ ○ エヤ

フホフフヤエヤエウホウ ○ 合▲エエヤフホ

フフヤ ○ 合▲ホホホホホホイイ ○

合▲ホウヅウウ ○ 合▲ホウウウウエウホフヤ

合▲エヤ ○ 合▲ヤエヤフホフフヤエヤエウ

合▲エ ○ 合▲エヤヤヤフヤエウエヤフ ○

合▲ホウホフホフフヤエヤエウホウ ○ エヤ

ウ フヤエウ ○ フホウホフウヤエヤエ  
 ウ ○ ホウエヤフヤホフヤエウ ○ エエ  
 エエヤヤヤフ ○ フフフフホホホホ  
 ホフホウホホウ ○ エウホウウウウ ○  
 フフウウウフウウ ○ ▲エホウホフウ  
 ヤ ○ ホフホホフヤエヤウヤヤ ○ エ  
 ヤフフフエウエホウホイヤ ○ エエヤ  
 エヤヤ ○ ホフホホウ ○ エウエホホウ  
 ホイヤ ○ フホウホヤフヤエウ ○ ホホ  
 ウホウウ ○ ウホフヤフフ ○ フホ  
 ウエホフ ○ エヤフフホ ○ ウホフホ  
 エヤエウウ ○ エエエエヤヤヤ ○ ホ  
 フホフホフホフホ ○ ▲フホウホフヤ ○  
 エエホウホフウ ○ フフヤフフヤエエ

◎ さいごのせき 本測り

ヤエエヤ ○ ホフヤフフ ○ フフフヤエ  
 ウ ○ ホフヤフフ ○ ▲ホフホフフヤホ  
 ホウ ○ エエウエホウホフヤ ○ ウホフ  
 ホウホフホヤ ○ エエヤフフ ○ ホフウ  
 エヤエウウ ○ エヤフ ○ ホエウホフホ  
 ウヤエエヤ

ヤフヤイブ ○ ホフヤエウ ○ ホフヤエ  
 ウ ○ ▲ブウエ ○ エヤヤエウウ ○ ホ  
 ウホウホイヤ ○ イエヤエウエウホウエ  
 ヤエヤヤ ○ ウホホホフヤ ○ ヤフホウ  
 エエ ○ ▲ウエヤフヤイヤフエウ ○ ヤ  
 フウウウウエヤフ ○ ヒヤエウウホフ ○  
 ウホホフ ○ ▲ウエ ○ ヤエウエウホフ

ホホ。ウエエウエホホフヤイヤ  
 エウホウ。ホヤイヤフ。合▲ホウウ  
 エホホフヤヤイ。ダヒヤヤヒヤエウウ  
 ホフ。ウエホフヤイブ。ホウエヤフ  
 ヤフヤエウウ。ヤヒヤエエウホホ。  
 ホフホウホイヤ。ホウウヤフ。ウフ。  
 ヤエウ。ヤイヤエウ。ホエエエヤ  
 ヒヤエウホ。ホフヤホロウエウホフウ  
 ホホヤイヤフヤエウ。ヤヒヤエウウウ  
 ▲ホブフホウホフヤエウエ。ホヤイ  
 ヤエエエエウブ。合▲ホロホウ。ヤエ  
 エウヤエヤイヤフヤフブ。ホウウウホ  
 フフ。ホロウホフヤ。ヤイヤエウウ  
 ホフホヤフホウフブ。ヤイヤフヤエウ

▲ウホフウエホフエヤフヤイヤエウ。  
 ホヤイヤフフ。ホウウホフ。ヤヒ  
 ヤエウウウ。ホウウヅウ。エウホフ  
 エエウホ。合▲ホイホウ。ヤエウエホ  
 ホ。ホウホフヤエウエ。ホヤエエ。  
 ホウウエホフヤ。エヤイヤフヤエウ  
 合▲ホウエウホフ。合▲ホウウエウエホフホ  
 ヤヤフヤイヤフ。ホエウホフホフ  
 ホヤイヤフ

神孔流

ニ上

ホウヤエウエウホウホフフ。ホウウ  
 ホウフヤエヤ。合▲エヤフ。ホホイヤホ  
 ウフヤフホウウ。合▲ヤエウヅエヤイヤ  
 エウホホ。フホホホホ。フウホ

ウ○ フホフヤフフホウホフヤエ○ エ  
 ヤフフホウホフエヤエウ○ フヤエウエ  
 エヤフホフヤホウエヤエウホフヤエ○  
 ホウホフフヤイホウホフホウホフヤエウ  
 合▲ ホウエヤエウホフヤ○ フホウフホ  
 ホホ○ ウウホエホ○ エエホウホフフ  
 ヤエヤフホフエヤヤエウホウ○ ウホウ  
 ウフ○ ホウホフヤフヤエ○ エヤヤフ  
 ホウホウウフ○ エウウウホウ○ ヤエ  
 エウホフヤ○ フホホイヤホウエヤエウ  
 エヤエウホ○ 合▲ ウホフヤエヤエヤヤ  
 ヒヒヒヒヤエエエ○ ホウエエウホウエ  
 ヤエウホウホイヤフホウウウ○ ウウエ  
 ヤホウホフヤエヤフホウウウ 合▲ ヤエウ

ホホフホウ○ エヤエウホウエウホフホ  
 フホウエ○ ホウホフヤ 合▲ エヤ○ フ  
 フヤフホホフホウエホウホフヤ 合▲ ホウ  
 ホフヤエヤフ○ フフフフフヤ 合▲ エヤ  
 ○ フホウホフヤエヤエウホウエ○ ヤ  
 ウホフフ 合▲ フホ○ ホウホフヤホ○  
 ウフエヤエヤエウ 合▲ フホ○ ホウホフ  
 フホフヤ○ フホフヤ 合▲ ホホ○ ウエ  
 ヤウウホフエヤエウ 合▲ フヤ○ フホフ  
 ヤ 合▲ エヤ○ フホウヤイヤエウホ○  
 ホウホウエホウホフヤ○ ヤエヤ  
 ⑤ 申 記 本調子

ヤフヤイヤフホフヤエウ 合▲ ヤヤフ○  
 ヤフフフ○ ホウホフフヤエウホウ○

エブウホウ。 エヤエウホヤエヤイヤエ  
 ウホフ。 ▲ホウウホウ。 ホウホフウウ  
 ウ。 ホウエウホフエエ。 ヤフヤエウ  
 ホウホフ。 ▲ホホフ。 ヤフウエヤウ  
 ホフヤ。 ▲ヤフホヤエヤエ。 ウホフホウ  
 エエエエ。 ▲エヤフヤエウホウエエウウ  
 ウホフ。 ウホフウエヤウエホフヤイ  
 ホウホフヤエウ。 ヤイヤエウ。 ホエ  
 エエエエウホホウ。 ヤエウホフウホホ  
 ウヤフヤエウ。 ▲ホフヤエヤフ。 ウホ  
 ホホ。 ▲ホフヤフヤイヤフ。 エウホフ  
 ヤエ。 ▲ヤイヤエウ。 ホエエウホエウ  
 ホホフヤ。 ▲ホフヤフヤエウ。 エウ  
 ホ。 ▲ホウエホホフヤフヤエエ  
 ▲ウ

ウエエエヤエヤ。 ヤエヤエヤエヤフ  
 ホフヤヤヤ。 エヤヒヤエウホホホ。 ホ  
 フフフウホフウホフヤエヤフウ。 ヤヒ  
 とヒ。 ▲ホホホ。 ホウエウホフウホフ  
 ヤヤフヤエヤフホウホフヤ。 ▲ホフ  
 ヤヤエウウホフエエウ。 ▲ホウウエヤ  
 フ。 ▲ヤフヤエエウホ。 ▲ホフホウ。  
 エウエホフヤ。 ▲ヤイヤエエウホウエ  
 ..... ▲ヤエエウヤ。 ▲エヤヤフヤエウ  
 ..... ▲ウホホウホフ。 ▲ウウフホウエエ  
 エエエ。 ▲ヤフヤフホヤイヤエエ。 ヤ  
 フヤフホヤイヤエヤエウホ。 エウホフ  
 ウホフ。 ▲ヤフヤフホウウ。 ヤフウ。  
 ウホホホエウホホホフヤ。 ▲ヤフホウ



エウホフウエヤエエエ○ ウエ……  
 ヤヤヒヤエウ○ ウエエヤヒヤエヤウエ  
 ウホフ○ ▲エウホフヤ○ ウホフフ  
 ウウホフフヤ ▲エヤ○ フホフウホフ  
 ヤ○ ホフヤイヤエウ ▲タヒヤヒビヤ  
 イヤエウ○ エエウエ○ ヤヤヒヤエウ  
 エヤウエウホフホ ▲ホフヤフフフウウ  
 ウホフホウ……○ ホウエウヅヅ○ ホ  
 ウエウエ○ ヤイヤエウホ○ エウホフ  
 ウホフヤフホヤイヤフ

◎ 花しづみ ミトマ

ヤフホウホフフヤエウ ▲ホウヅウウ○  
 ホウウウ○ ホエウホフヤ○ フホウ  
 ウホフヤ ▲エヤフ○ ヤフフフウホホ

フヤフ○ ホフフヤエウ ▲ウエ○ エ  
 ヤヤエウホ○ ▲ウエ○ エヤフフエエ  
 ウホフヤ ▲フホウエフヤエウ ▲エウ  
 ○ ヤフホウウホウ○ エウホフヤフ  
 ホフヤイヤフフ○ ▲ホフヤエエホフ  
 エウホウウウ○ ウエヤエウホフヤイヤ  
 フホウフエエ○ ウエエ○ ウエエヤエ  
 ウ○ エエエエエウホフヤ○ フ  
 フ ▲ホウ○ ウホフヤエ「あり」ヤフホフ  
 ウホフヤイヤエウホ○ フホフヤフホホ  
 ヤフフヤエウ

◎ 千代獅子 本調子

ヤフヤイヤブブ○ ホフヤエウ ▲ヤエ  
 エヤヤホフヤヤ○ ヤフフホフヤエウホ

ウ。 ヤフヤエウエヤフヤエウホフ。  
 ▲ヤイフヤフフフウウヤフウ。 ヤフ  
 フホフフヤイヤフウ。 ウホフヤホヤイ  
 ヤフ。 ▲フフウ（毛を以下）エエウウホフ。  
 ホウヤヤイヤフヤイヤフ。 ウホホホ  
 ウホフヤヤイヤフヤイヤフフフウウ。  
 ヤフウホホホホ。 ウウホウホフヤ  
 ヤイヤフ。 ホウホウホフヤエエ。 ウ  
 ヤフヤイヤウウホフ。 ホウホウエ。  
 ヤエウホフ。 ヤイヤヤフ。 ホホホホ  
 ホフヤフホウホフヤ。 フホウウヤフヤ  
 エ。 エウホウエヤイヤフ。 ホウウホ  
 ウエウ。 ホロウウウホフフ。 ホロウ  
 ホフ。 ウホウホウ。 ウホウホフヤエ

エ。 ウウホウ。 ヤイヤエウホロウホ  
 フ。 ホウヤヤイヤフヤイヤフ。 ヤ  
 フホフヤヤヤヤフヤ。 ヤヤエヤウエ  
 ヤエウエ。 ヤフヤエエエフヤエヤフヤ  
 イヤフ。 ウホホホウホフヤヤイヤフ。  
 エウエウホホホフヤヤイヤフヤイヤ  
 フフフフウウ。 二段 ヤフウホホホホウ  
 ウホウホフヤヤイヤフ。 ホウホウホフ  
 ヤエエ。 ウヤフヤイヤウウホフ。 ホ  
 ウホウエ。 ヤエウホフ。 ヤイヤヤフ  
 ○ ホホホホホフヤフホウホフヤ。 フ  
 ホウウヤフヤエ。 エウホウエヤイヤフ  
 ○ ホウウホウエウ。 ホロウエウホフ  
 フ。 エホウホフ。 ウホウホウ。 ウ

ホウ・ホフ・ヤエエ。 ウウ・ホウ。 ヤイヤ  
 エウ・ホロウ・ホフ。 ホウ・ヤヤ・イヤフ・ヤイ  
 ヤフフ。 ヤフ・ホフ・ヤヤ・ヤヤ・ヤフ・ヤ  
 ヤヤエ・ヤウエ・ヤエウエ。 ヤフ・ヤエエ  
 ○ フヤエ・ヤフ・ヤイヤフ。 ウホ・ホホウ  
 ホフ・ヤヤ・イヤフ。 エウエウ・ホホウ・ホフ  
 ヤヤ・イヤフ・ヤイヤフフフウウ。 三股 ヤ  
 フウ・ホホ・ホホウウ・ホフ・ヤヤ・イヤフ  
 ○ ホウ・ホウ・ホフ・ヤエエ。 ウヤフ・ヤイ  
 ヤウウ・ホフ。 ホウ・ホウエ。 ヤエウ・ホ  
 フ。 ヤイヤ・ヤフ。 ホホホ。 ホホフ  
 ヤフ・ホウ・ホフ・ヤ。 フ・ホウウ・ヤフ・ヤエ。  
 エウ・ホウエ・ヤイヤフ。 ホウウ・ホウエ  
 ウ。 エホウ・ホフ。 ウ・ホフ。 ホウフ

○ ホウウ・ホウ。 ウ・ホウ・ホフ・ヤエエ。

ウウ・ホウ。 ホウフ・ヤフウウ・ヤフウ。

ヤフフ・ホフ・フ・ヤイヤフウ。 ヤフ・ホヤ

ヤエウウ。 エヤヤ・ホフ・ヤ。 ホウ・ホフ

ホウエ・ヤブ。 ホフ・ヤエエ・ヤエウ。 ウ

フ・ホヤ・イヤフ・ヤエウウ・ホウ

● 大津画ぶし 二五五

ウウウウ・ホフ・フ・ヤ。 フ・ホフ・ヤエヤフ

フフフ。 エウ。 エエウエ・ヤエウ・ホウ

エウ・ホフ・ヤ。 合ホホフ・ホフ・ヤ・ホウ。 エ

エエウ・ホフ・ヤウ・ホホウウエ・ヤヤ

● 大津画ぶし 二五五

合▲ホフ ブブ...ホフ・ヤエヤフフフフ

ホウウエ。 ホウホフヤヤフ。 ヤヤエ そのか  
 エヤウウエヤヤヤ。 フ...  
 ○ ウホフホウウ。 ヤフ。 ホホフホ  
 ヤフヤエエ。 ウホウエヤ。 フヤホウ  
 ホフホヤフフヤエウ。 ウエヤエウホエ  
 エウホフ。 ▲ホフフヤ。 ホホウエヤエ  
 ウホウウウウ。 ▲エヤ。 フフフホウウ  
 エウホエエウホフ。 ホフホフホヤ  
 ヤフ。 ヤヤヤエヤヤヤフヤ。 ホ  
 ウホフホヤ。 ▲ホフホウ。 エエウエホ  
 ウホフヤ。 エエヤエヤフホフホ ヤヤ  
 エウホホウ。 つた

◎せしせぶし

▲ヤヤフ..... ヤフヤエヤフヤウ。 エ

ヤフエウエエウホフ。 ウウホウヤエウ  
 エエウホフ。 フホウホフヤ。 フフフ  
 ○ フホウホフヤフフ。 フホウホフヤ。 フフフ

◎せんごふぶし

ヤイヤイヤエウレエ。 イヤイヤエウレ  
 エウホフ。 ヤヤヤヤイヤエホウヤエエ  
 ウ。 ヤヤヤヤイヤエホウヤエエウ。  
 ヤヤヤヤイヤエホウヤエエウ。 ヤヤヤ  
 ヤイヤエホウヤエエウ。 エホウウホウ  
 ○ イイヤエウ。 エエウホフ。 ホ  
 ウエエホウ。 ホ

◎すぶぶぶぶし

(一十五)  
 ホウエウホウ。 エウホウウ。 ホウエ  
 ウホフ。 ウホフウヤヤエウ。 エエ。

エエウホフホウ。 エヤエヤフエホウ。  
 ホウエウホフ。 ウホフウヤヤエウ。  
 ウウエヤエヤフフエヤ。 ホフ。 ホ  
 ウエウホフヤホウホウ。 エウホウウ。  
 米山じんと

△ホウエエウ……………ホウエエウ。 フホ  
 ウエエウ。 ▲エエウ。 ヤエエウホフ  
 フウホウ。 エエウホフヤエ。 エヤフホ  
 ホフヤエ。 エヤフフ。 ▲ホウエエウ  
 ……ホウエエウ。 フホウエエウ ▲  
 エエウ。 ヤエエウホフフウホウエエウ。  
 ホフヤエ。 エヤフホフヤエ。 エヤ  
 フフ

◎急んのかえ 本調子

△ホフブヤフ。 ホフブヤフフ。 ブヤ  
 フ。 フブヤフ。 エヤエウヤフヤイ  
 ヤフ。 ホフヤイヤエウ。 ▲ウウウウ。  
 ○ホウウウウウウフホウウ。 エ  
 エウウホフヤ ▲ウウエ。 ウエウ。  
 ウエウヤフホ。 フヤイヤエウ。 ホウ  
 ホフホウホフヤエ。 エヤフ ▲ホウエフ  
 ヤフ

◎急んのかえ

フフフフフヤフフヤエウ。 ウウウホウ  
 レエヤフヤエヤウエ。 フフフフフ  
 ヤフフヤエウ。 ウウウホウレエヤフヤ  
 エヤウエ。

◎急んのかえ

ホウウホウホウ。

エヤヤエヤエヤ。

フヤフフフフ。

ホホフヤホホウ。

エウエホホウホ。

フホフヤフフヤフヤ。

エウ。エエエウホフヤ。

● 母後の宮津

ヤフフフホヤエ。

ヤイヤフフ。

ホフホウエウ。

ホウエウエホフ。

フウフヤエ。

エヤヤエヤエヤフヤフ。

● ツギをせぶし

ヤフフホウエウ。

ホウエヤフヤエウホ。

ウウホフホウエウ。

ウヤエウフヤ。

フホウフヤエ。

ホウエヤホホヤフフ。

● 逢ふぶし

ヤフホウホウホフホフ……

エヤ。ヤ。

フホウヤエウエウエウホ。ホウヤエ

ウホフホフヤエウホフ。フホウヤホフ

ホフヤフホフ……。ヤフホウホウホ

フホフ……。エヤ。ヤフホウヤエウエ

エウヤウホフホフヤエウホフ。フホウ

ヤホフホフヤフホフ……。ヤイ

ヤエウレエヤウホフホヤエウレエ。エ

ヤフホフホフエホフヤフフ。フホヤエ

○ エヤフホヤエ。エヤフホホフウエ

ホフヤフフ。フフヤフフヤフホロヤフ

ホロヤフホヤエウレエ。エヤフホホフ

ウエホフヤフフ

● どんくぶし

ヤフフフフホフヤフフ。ホウウエホ

ウ。 エエウエヤエウホ。 ウホウホフ。  
ホホヤフ。 ウホウウヤフ。

● 猿球ぶし

ヤフフヤフホウエホフ。 ヤエヤホフヤ  
エエ。 ヤフフホウウホフ。 ホウエエ  
ホウ。 ▲エエエウウホフホホホヤフ  
フ。 フヤフフフヤフフ

● 本浦子

▲ホフフヤフフフヤ。 フフフエヤエウ  
ヤフヤイヤフ。 ウホフヤエウヤエヤウ  
ホフ。 ▲エウホフヤウエ。 エヤエヤ  
エウヤフヤイヤフ。 ホウホフホホヤフ  
▲ヤイヤ エウエホウエウ。 エエエ  
ヤエエエウホ。 ホウウエヤ。 ヤヒヤ

エウウウエ。 ウホホウホフヤホフヤエ  
エヤエウヤフヤイヤフ。 ホウホウ  
ホフフヤエウ。 ホホホホウウホウエエ  
エウ。 ホウエエウエ。 ヤヒヤウエホ  
フ。 ウウホホウホフヤホフヤエ。 ヤ  
フホヤフ。 ▲ヤエヤエウウホフ。 ホフ  
フヤフ

● 本浦子

ヤフフヤフヤフヤエウ。 ▲フホウ。 ホウ  
ホフヤホホ。 ホホフヤ。 フホウホフ  
ヤヤイヤエウ。 ▲ヤフ。 ウホフホエウ  
ホウホフヤホフブヤ。 ヤフヤエウホウ  
○ フヤエウホフ。 ▲ヤイヤエウホフ  
フヤフヤエヤフウホウウ。 ホウウウ

ウエウホフホホフホウエエ。 ヤイヤエ  
 エウヅホウホフヤ。 ウホホフヤフホウ  
 エウホフヤフ。 ウホフヤエウ ▲ヤホ  
 ○ウエウ ▲ヤフ。 ホヤエウホフヤ  
 フ。 エウホフヤフ。 ウホホフヤフ  
 ▲ホウヅエエエヤヒホフヤエウウエヤ  
 エウホフヤエヤフヤヒヤエウウホフホウ  
 ○ヤエウエヤウホフ ▲ヤブ。 エエ  
 ウホフヤ。 エヤフホヤイヤエウ ▲ホ  
 ウ。 ホウウウエウホフホフホヤイヤフ  
 ◎たやまぶし  
 フヤブホホホフ……………ウウホウホフヤ  
 エヤフホヤエ。 ホヤフフエウウウ。  
 フホウウウ……………エウホ。 ホフ

ホウエヤヒヤエウエウウホフ

◎忍か代

フヤフホウホフ。 ホウエエヒヤエエ。  
 ホウエヒヤヒ。 ホウエウホフ。  
 エヤヒヤヒヤエエウホフ。

◎屋

フホヤエヤ。 ホホホフホ。 フホウエ  
 ウホホフホ。 ヤヤヤエウ。 ヤエハホ  
 ヤエウエヤエウ。 ホホフホホ

◎夕ぞら

ウウホウホウホフフブホウウ ▲ウヤ  
 フウウフウ。 ヤフフヤイヤフフ。 ホ  
 ウホフホヤイヤフヤエ。 ▲ブホウウヤ



フウ。 ホホフフヤフフウホフヤエウ  
 ▲フウブ。 ウエエヤイヤフヤイヤフ  
 ウ。 ホウエヒウホフフ。 ▲フヤ  
 イヤフホ。 ホホフホウエウホフ。 ヤ  
 フホウフヤフヤエウブ。 ヤエエウフヤ  
 イヤフ。 ウエフフヤエウ。 ウホウホ  
 ウ。 ホウウエホフヤイヤフホウフヤフ  
 ヤエウ。 ホウエフウホフフ（以下略）  
 ヤフヤイヤフ。 フホヤ……ヤフ。  
 ホウフフフウウ。 ウエウホフヤフホ  
 ホフヤエエウヤイヤフホウエウホフヤイ  
 ヤフヤエウホフ。 ホウエヤイヤヤフ。  
 ホフホヤフ。 ウエヤヤエウエヤウホ  
 ホフヤエエウ。 ヤイヤフホウエウホフ

ヤイヤフ。 ヤフフヤ。 ホウホフ  
 ヤ。 ホフヤエヤフホヤエヤエウホウ  
 ○ ホウホホウエ。 エヤフフフホ  
 ホウホフホヤエ。 エヤフホヤエ。 エ  
 ヤフホウホフヤイヤエ。 フヤエヤエエ  
 ウヤエウホウエウ。 ヤエウホウフ。  
 ウホフフウフウフホウフ。 ホウエヤヒ  
 ヤエ。 ホフヤフエウホウエヤフエウホ  
 フフヤフホ。 ホウエヤヒヤエヒヤウエ  
 ウホ。 ウエヤヤウエヤエウホウホフ  
 ヤフフホウ。 ホウエヤエウエホホ  
 ウホフホフヤフ。 ホウエホホウホフホ  
 ヤフヤエ。 エヤイヤフフヤフフヤフ  
 ホホフヤエウホウエヤヒヒヒヒホ

ウウホフ。 ホウエウエ。 ヒヤエエウ  
 エ。 ヤヒヤエヤヒヤエヤヒヤヒホフヤ  
 ホフ。 ウホウホフ。 ヤイヒヒヤイヤ  
 エ。 ヤイヤエヤウエルホ。 ウエヤヤ  
 ウエルホ。 ヒヤエヤウエルホ。 ウホ  
 フヤフ。 ヤエウヤエウエホウヤエウホ  
 フホヤフフ。 ホホウウエウウヤヤエ  
 エウエエウホホ。 ウエヤヒヤエウホフ  
 ヤフ。 ホウエホホウホフホヤフフ。  
 ホウ。 ウエウヤウヒヤイヤエエウ。  
 ホホウホフホヤフフフフ。 ヤフホフフヤイ  
 ヤフヤ。 フヤフホウウエウウホフヤ  
 ▲ウエウホウホフフヤヤフホ。 ホ...  
 ホフフヤフ ▲ウエウエヤウホウホフフ

ヤイヤフヤ。 フフフホウホフヤエ。  
 フフヤエ。 エウ。 フフフヤエウ。  
 ホウエフウホウホフフ。 フホヤイヤフ  
 ヤエウウホウ。

●玉 川 本調子

ヤフフホフヤエウホウ。 ホウホウホ  
 フフ。 ホウウエホホウホフ ▲ヤフ。  
 ホホフヤヤ ▲ホウホイヤイヤエ。  
 ヤイヤフホ。 ホフフヤイヤフ。 ホ  
 ウホフヤエエヤエウ。 エフウウホフ  
 ▲エウホフホ。 ウヤフヤイヤフ。 ホ  
 ウホフヤエエヤフヤエウエ。 ▲ヤエウ  
 エヤフウウホフ。 ブブウホウフ。 ヤ  
 エエウホ。 ホウウホフヤイヤフ ▲

ホウエヤウホフヅホフヅホウ。      ホウウ  
 エウホウホフ。      ホウヤイヤフフヤエ  
 エ。      エヤフウウホフ。      フヤヤエヤウ  
 ヤエウエウホフ。      ヤヒヤエヒヤエウホ  
 フ。      エヤフウホフ。      ▲エウホフホ  
 ウウホウホフヤ。      ホエウホフヤウホ  
 フフヤエウエヤフホウウ。      ▲ヤヤエ  
 ヤホホイホウヤヤエウ。      ヤフフヤイヤ  
 フ。      ホウホフヤ。      ホフヤエエヤフフ  
 ヤエウ。      ▲エヤ。      フフホホイホホイ  
 ヤ。      エヤフフヤエウウホウエヤヤ。      ▲  
 ヤエヤエウウヤフヤイヤフ。      フフフヤ  
 エエホウホフフヤエウヤエウウホウウ。        
 ホウウホフフ。      ヤエエエヤフヤエウ

○ウホフヤヤホフヤエウ。      ヤフフブヤ  
 エヤイヤフウエヤヒヤエエウホフヤフ。        
 ホホフヤエウホフホフヤエウウ。      ▲ヤ  
 フウ。      ▲ヤフフフホウウホフフ  
 ヤイヤフヤフ。      ホホホホフフヤウホ  
 ウフフ。      ▲ウウウヤフフフヤイヤエウ  
 ホウ。      エウホフウホフホフ。      ヤフ  
 ヤフフウウフヤエウ。      ヤエウホウエヤ  
 イヤフ。      ▲ウウウホウホフホロホロウ  
 ウフ。      ヤフホヤエウホフヤエウホウエ  
 エエウホフ。      ▲エヤフエヤフホウエホウ  
 ホフ。      ウフヤフヤエエウホウウ。      ホ  
 ウフホヤフヤエヤフホウエヤフヤエウホ  
 ウエエエウホウウ。      ▲ホウホイヤ。

(六十六)

イヤエウホウエヤウ。 ヤウホウ。 エ  
 エヤエウホウ。 エヤウウ。 エヤフヤ  
 エエヤエウヤエウ。 ホウエウエウホ  
 ウホフホヤフヤエ。 エヤエ。 エヤエ  
 ウエエエヤ。 イヤエウホウエヤウ。  
 ウウフウフブヤフ。 ウウウフウ  
 ウフヤヤヤフホホフ。 ホホウヤヤヤ  
 ヤフウウフ。 ヤヤヤヤ。 ヤヤヤ。 ヤ  
 ヤヤ。 ととと。 ととと。 ととと  
 ○ ホウホフ。 ウホフ。 ウホフ。  
 ホホフフヤヤエエウウホウウホホフフ  
 ヤヤエエウウホウウホホウウエエヤヤ  
 フフホホウホフホホウウエエヤヤフフホ  
 ホウホフホウホフ。 ホフヤエヤフヤエ

(七十六)

ヤ。 ホフヤエヤフホフヤエヤフホフホ  
 フ。ホフ。ホフ。ホウ。ホイヤ。 フホウエホフ  
 ヤ。 ヤヤ。エエ。ホホ。フ。 エエヤヤホ  
 ホフフ。 エヤヒヤホフヤエヤ。 ヤヤ  
 ウヤウヤヤウヤウホフ。 フホウエ  
 ヤエウ。 フフフヤエヤフフフヤエ  
 ヤフフフヤフフホフフヤフヤエフフフ  
 フヤフフホフフヤフヤエエエエウエホ  
 ウホフホウホフ。 エエエエウエホウホ  
 フヤ。 ウホフヤフホフヤフ。 ホウホ  
 フホホフヤホウホフホホフヤウフフウ  
 ウフフウフウフ。 ウウフフウフウフウ  
 ウフフウフウフウホホヤヤフフウウホ  
 ホヤヤフフウウホホホホホフヤヤヤヤ

ヤヤヤヤヤエエエウウウウホホホ  
 フフフフホホフフフフヤヤヤエエ  
 エエエエエウウウホホホフフフ  
 ホホホフフフヤヤヤエエエウウ  
 エウウウエ。 ウウエウウウウエ  
 エ。 ヤエウホ。 ホウホフヤエ。  
 ウエヤヒヤエ。 ヤヒヤエウエ。 ヤヒ  
 ヤエウエヤエ。 ヤヒヤエウエヤエ。  
 ヤヒホウホフヤヒヤエ。 エヤヒヒヤエ  
 ウウエウエ。 ウエヤヤヤヤヒヤヤエ  
 ウホフ。 ヤエウヤエウホフヤイヤフ。  
 ヤフエフエヤフホウエウエホフ。 ヤ  
 フフヤ。 ヤフフヤイヤフ。 ホウホフ  
 ホホフヤエウ。 ホウエヤフホヤエウホ

ウウ。 （尾を以てトニエ） ▲フフエエ。 フエヤエ。  
 フフエウエ。 ヤエヤフホフヤフエホ  
 フヤエヤイヤ。 ヤフフエエホフヤイヤ  
 フ。 ホウエフフエ。 ウウエ。 ヤヤ  
 エ。 フフフホ。 ウウホ。 エウウウ  
 ウホフヤフエウホフ。 エウエウエフウ  
 エ。 ▲ヤフ。 ホフホホフヤエウエヤ  
 ヤフホフヤエ。 フフフフブブウエウ  
 ホフ。 ▲ウエ。 ヤヤエウエフヤフヤ  
 エウホフ。 ウエヤフホウホフヤエウエ  
 。 ▲ウエヤウエヤヒヒヤヤエウホフ。  
 ヤフホウエウホフフヤエ。 フフ  
 エウエフウエ。 ホウエフフエ。 ホフ  
 ホホフヤエウエ。 エホホホウエウホフ

○ ホウエウホフフヤイヤフフホウ  
 ▲ ウホウエ○ ヤエヒヤエエウホウエ  
 ウホフフヤエ○ フフヤエウホフホウ  
 エヤフホ○ ホフフヤイヤフ



三ノ下

ヤフホフヤホフヤエウフヤエウ○ ▲ ブ  
 ウエ○ ウエエヤウエウホフヤイ○ ホ  
 フヤエフエウホフ ▲ ヤイブ○ フ  
 フエエウエ○ ヤフホホヤフヤエウ ▲  
 ウフウフホ○ ホウエヤフホ○ ホウホ  
 フヤホフフヤエウ ▲ ヤフウホウウウ○  
 ヤフエエウホフ○ ウホヤヤ○ ホ  
 ヲホフホフフヤエウ○ ヤエエヤウ ▲  
 エヤ○ フフホウホフフヤエウ○ ヤ

フヤエ ▲ ヤフ○ ホフホヤフ○ ホホ  
 ホヤフフフ ▲ ヤイブホフ○ ホホホエ  
 ホホフ ▲ ヤイヤフ○ ホウホウホフホ  
 ヤフヤエウ ▲ ヤエウホウ○ エエエホ  
 フヤフホヤエ○ エヤイヤフヤエウ○  
 ウホフエエエウホウホウ○ エフウエ  
 ホウウ ▲ ウウフフウウフヤエウブホ○  
 ウウウエウホフフウホウホウ○ ヤエ  
 ウウエホウ○ フヤエヤフホホフヤイヤ  
 フ○ ウウフヤエエヤエウ ▲ エヤ○  
 フホヤエエヤエウホフ ▲ ウエヤ○ エ  
 ヤヤフヤイヤフウホフヤ○ フホウホフ  
 フヤエウ○ エフウエウフ○ ウウフヤ  
 エエヤエウ○ ▲ エヤ○ フフホフヤホ

フヤエウ。 ふうりうを ホホフヤイヤエウエ。 う ウ  
 エエエフ。 まのな △ウエ。 ういてうどうや ヤエホウエエ  
 ウホウウフヤエヤフウホウホフ。 ま ホフ  
 ヤイヤフホウホフヤエウホウヤフフ。 ま ホフヤイヤエ  
 ホウエヤウホフヤフ。 ま ホホフヤイヤエ  
 ヤエウエヤフホホフヤフ。 ま ヤフヤフヤ  
 エウ。 ま エヤヤエヤヤホフヤエウ。 ま ホ  
 ウエフウウホフ。 ちくたひ フヤエヤウウホウ。 たぶーさるるて  
 ホホヤフヤエウエヤフヤフ。 ま ホウエウ  
 ウホフヤイヤフ。 ひるな ホフヤエヤフヤイヤ  
 エウ。 ま ホウエエエウホウホフフ。 ま フ  
 フフフヤフヤエウホウエヤフヤエウウ。 ま  
 ヤヤエヤフ。 ま ホウフヤホホフヤ  
 エウ。 ま エホウエエウヤヤフウフヤエウ

○ エヤホウホフフ。 ま ヤエホウエウヤ  
 フホフホウエウエ。 ま エエウホホウ  
 ホウウホウ。 ま ウホウエウ。 ま エエヤエ  
 ウエヤ。 ま フフヤエヤ。 ま フホウヤエヤ  
 ウウ。 ま ホウヤフウウフ。 ま フウウフ。  
 ヤフ。 ま ウホフヤフ。 ま ホウエヤウ  
 エエウホフ。 ま ヤヤエウエウエウホ。  
 ホウエヤウホフ。 ま ヤエヤイウホフヤエ  
 ○ ヤイヤイヤフフ。 ま ホウフホ。 ま ウ。  
 エヤフヤウフフヤエウ。 ま ウフフフ  
 ヤフフフヤフフ。 ま ホホウホフヤホホフ  
 ヤエエホホウホフヤホホフヤエエウエヤ  
 フヤエエウエホ。 ま ウエウエウエエ。  
 ホフヤイヤエ。 ま フヤエウホウウ。 ま ホ

フヤフウホフホウホフホホホウヤヤフホ  
 ホホエウホヤフヤエウ。 ブブホウウホ  
 フフウホフヤフヤエウ。 三股ホウウエヤ  
 ヤフホウホフヤヤ。 ヤエヤエヤヤ。  
 ヤエヤエヤヤエヤ。 フヤエヤフホウホ  
 フヤ。 ヤエウホウホフヤエエウホウホ  
 フヤフエヤ。 フホウヤエウウ。 エヤ  
 ウウヤエヤウウヤウウウヤ 四ウウウ  
 ウヤ 四ウウヤウウヤヤウエ...ヤヒヤエ  
 エエヤホホホヤヤヤヤホホホホホ  
 ヤヤヤヤホホホヤヤホホホヤヤウ  
 ホフホフヤ。 ウフエヤフ。 ホヤエヤ  
 エウウ。 ヒヤエヤヒヤエヤエウウ。  
 ホウエヤヒヤエウヤフ 四股ホホホフフウ

ヤヤイヤフホウホフ。 ウヤ...フ  
 ホウウエウホフ。 エウホ。 ヤフヤエ  
 ウホフヤホホフヤエウ。 エヤフヤフ。  
 ホウホフエウホウホフ。 ウフウフウ  
 フウフウフウフヤヤフウ...フウ...フエ  
 ...ウエホウホフ。 ヤフホウエ...ヤウ  
 ...エ...ウホフ。 ウホウフヤエエ。  
 ウエヒヤエヤフフ。 ホフヤフ。 ウホ  
 フホウホフホ...ウ。 ヤフヤエウ。 エ  
 ヤフホホウヤヤフウウフ。 ウフウ...  
 エエウエエホウウホフ。 ホウフホウフ  
 ホフヤエエ 五股ヤイヤエヤイヤエヤヤエ  
 ヤヤウエエウホホ。 フホエホエホホホ  
 ○ ウエフホエホウエエホフヤフ。 ウ

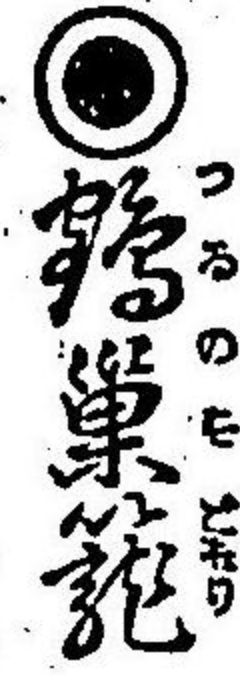


(六十七)

ホウホフヤフホフ。 ヤイヤイフフヤ  
 イヤイフフフフフフフフフフフフ  
 ヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤ  
 フフフフフフフフフフ。 ヤヤヤヤ。  
 ヤフホフウホフヤイフフフフフフフ  
 ホフヤイフフフヤ……。 ホ……。ホ……。  
 ホ……。ホホホホホホホホホホホホホ  
 ウ。ホホフウホホフホヤ。フホ。フホホ  
 ……フホヤ。フ。フ。フ。フ。フ。フ。フ。  
 フフフフフフ。 フ。フ。フ。フ。フ。フ。  
 フ。ホヤヒヤエウ。 エウエウホ  
 フ。 ヤヤウエ。ヤ。 ヒヤエエ。ヤ。  
 ウ。エヤエウホフヤイヤ。 フホウホ  
 フホフヤエ。ウ。 ウホウホフフホウ

(七十七)

ホフヤフフフホヤ。フホフヤエヤフヤエ  
 ウ。 ホホヤフヤエヤエヤエウホウフ。  
 ウウホウウホウフ。 ホウホウホウウ  
 ○ フホウホフホウヤエヤエウフフフ  
 フフフ。 ホウエヤイヤフ。 ホウヤフ  
 ○ ヤフフヤイヤフ。 ホ……。ホフフヤフ  
 ヤエウ。 エヤ……。ホホヤフヤエウ。  
 フホウエエウ。 ヤフヤエウ。 フウウ  
 フフウ。 ▲エウホホウエウホフウホフウ  
 ウ。 エウエウホフ。 ホフヤ。 フフ。  
 ヤエ○。 ホフフヤエエヤエウ。 ▲エヤ○  
 フヤフ。 レウヤフヤエウ。 ▲エヤ○。 フ  
 レウウホフヤエヤ  
まじりまじり  
せむら  
せむら  
あんだんぼ  
せむら  
あんだんぼ  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり



初段 ヤヤフ。 ヤヤフ。 ヤヤフ。 ヤヤフ。 ヤヤフ。

ヤヤフフロ……リンヤヤフヤホウフ。

ヤヤフヤホフ。 ヤヤフヤホウフヤホ

フヤ。 ヤエホフフヤエホフフヤエホウ

レヤエホウレヤエウレウレヤエウレ

ウレエエヤエウウエエヤエウウヤエウウ

ヤエウウヤエウヤエウヤエウホウウエ。

ホウエホフフホウエホフフヤエヤウホ

フフヤエヤウホフフヤラヤラエヤラヤラ

エルヤラヤラエヤラヤラエル。 ヤエウヤ

エウ。 ヤエウ。 ヤエウ。 ヤエウ。 ヤエウ。 ヤ

エウ。 ホフヤホフヤホホフヤホホフヤホホフホ

ホフホホフ。 <sup>二段</sup>ヤエルホ……ホウホ

フ。 ホウフヤホウフヤホホフヤエフホ

ホフヤエフヤエルホ……ホウホフ。

ヤヤホフ。 ヤヤホフヤホフヤホウエ

ホフヤヤホフヤホフヤホウエホフヤ。

ホホフヤヤフホホフヤヤフホウウフ。

フホウホウホ。 ホウエヤエウウホウ

エヤエウ。 エヤヤエウウ。 ヤイヤヤ

イタヒヤエウヒヤイタヒヤエウヤイヤヤ

イタヒヤエウヒヤイタヒヤエウ <sup>三段</sup>ヤイ

ヤ……タヒ……ヤエウホフフタ

ヒ……ヤエウホフフヤエウエヤラエウ

ヤエウエヤラエウヤヤホフ。 コロリン

ヤホフヤエエ。 ウエヤイヤエ。 ヤエ

ウエヤエウエヤフホフヤエエヤフホフヤ

エエ。 ウホフホフウエウエヤヤエ。

ウエウエヤヤエウエヤヤエウエコロ……  
 ……リンコロ………リンリン…  
 ホウホフ。フフホウウ。ウウホウ  
 レウホホ。ヒヒヤエエエ。ヒヒヤ  
 エエエヤウヤエエホホウホフ。ウレウ  
 レウホフフホフフ。ホホ。ホホホホ  
 ○ ウウホウレウレウレウホフフ。ウ  
 レヤフヤエ。エエヤエエエエヤエエ  
 エヤエエエヤエエエヤエエ。ヤイヤ  
 イウホフウホフウホフウホフウホフ  
 フホウウエ。エエウエエウエエウエ  
 エウエエウエエウエエウエエウヤラヤ  
 ラヤウウウヤラヤウウウ。ヤ  
 ラヤウウウヤラヤウウコロコロリン。

コロコロリンヤホウホフ。コロコロリ  
 ンヤホフ。ホホタタタホホタタタ  
 ホタタホタタホウホホタタタホホタタ  
 タタホタタホタタホウヤイヤウレヤイ  
 ヤエウ。エヤヤッヤヤイヤイヤイ  
 ヤヤッヤヤイヤイヤイヤイヤイ。タヒ  
 ○ ヤイヤイ。タヒ。タヒ。ヤイヤエウ  
 ヤエヤウホフフ。ヤラヤラエヤラヤラ  
 エルヤラヤラエヤラヤラエルヤエウエヤ  
 ラエウフヤエウエヤラエウヤラヤライヤ  
 ラヤライヤライヤライヤライヤライタタ  
 ヒヤラヤライ。タタヒヤラヤラエウ。  
 ヤラヤライヒヤラヤラエウ。ヤエウ  
 ホフフ。ホウホホウウホウエエ。ヤ

(二十八)

エヤイヤヤイタヒ。 ヤイタヒヤイヤエ  
ウヤエウホフフ。 ホウエウエホフヤフ  
ホウフフヤエヤイウウホフ。 ウフホウ

◎ 本也 終慕

フホロロウホホフ。 ウヤ……………イヤエ  
ヤエヤエヤ。 ホウホフヤイヤエ。 ヤ  
エヤエヤ。 フフフヤフヤエエ。 ヤイ  
ヤエウエウホロ。 エウエウホロ。 ウ  
ウホウウ。 フヤエウエウホロ。 エウ  
エウホロロ。 エウエウホ。 エエウホ  
ホフホホフホフヤエ。 ヤエウエヤエヤ  
○ フヤヤフヤフフヤヤ。 フフヤ  
ヤエウウ。 ヤイヤエウホホフヤフヤエ  
ヤ。 フホロロレレ。 エウエウホロウ

ウウホウウ

◎ 劍舞詩

詩の朗吟に合調すべき尺八の音律は略ぼ一定にして絶句律  
詩も大差なし其各詩に就て差異ある處は四聲音律の長短  
緩急甲乙の區別にあるのみ故に今左に唐詩一絶劍舞詩一絶  
一律を掲げて規範を示す(左に示す劍舞詩の劍舞法は矢島  
誠進堂發行の劍舞獨案内に載す)に止むれば此三詩の譜  
に就き音律の長短緩急を練磨せば如何なる詩にも合調吹奏  
することを得べし若し解し難きものは著者雪翁の庵を訪へ

◎ 和詩

ヤフフフフフヤヤイ。 ホホホフヤヤエ  
ウ。 レウヒウエヤヤ。 フホホフヤエ  
ヤヤ。 ヤフフフフフヤヤイ。 ホホホフ  
ヤヤエウ。 レウレウエヤヤ。 フホホ  
フヤエヤヤ。 フホホ

(三十八)

◎ 劍舞詩

鞭聲肅々夜渡河 曉見千兵擁大牙  
遺恨十年磨一劍 流星光底逸長蛇

ヤフフフフヤヤイホホフヤエウ。

レレエヤフホロホフヤエヤエヤ。ヤフ

フフフフヤヤイホホフヤエウ。レレ

エヤフホロホフヤエヤエヤ。

日出國兮有名寶 百練精鐵所鍛造

光鉞電閃夏猶寒 風蕭々兮髮衝冠

請看日出男兒膽 踏白刃兮犯敵丸

犯敵丸兮陷敵陣 縱橫搏擊山岳震

有死之榮無生辱 不須將臺受約束

ヤフフフフヤヤイホホフヤエウ。

レレエヤフホロホフヤエヤエヤ。ヤフ

フフフフヤヤイホホフヤエウ。レレ

エヤフホロホフヤエヤエヤ。ヤフフフ

フフヤヤイホホフヤエウ。レレエヤ

フホロホフヤエヤエヤ。ヤフフフフ

ヤヤイホホフヤエウ。レレエヤフホ

ロホフヤエヤエヤ。ヤフフフフヤヤ

イホホホフヤエウ。レレエヤフホロホ

フヤエヤエヤ。レレエヤフホロホ

明治二十八年八月十二日印刷  
明治二十八年八月十七日發行

定價金貳拾五錢

著者 上村雪翁

大阪市南区順菜町三丁目六番邸

發行者 矢島謙進堂書局

大阪市丁区上落波南ノ町六十八番邸

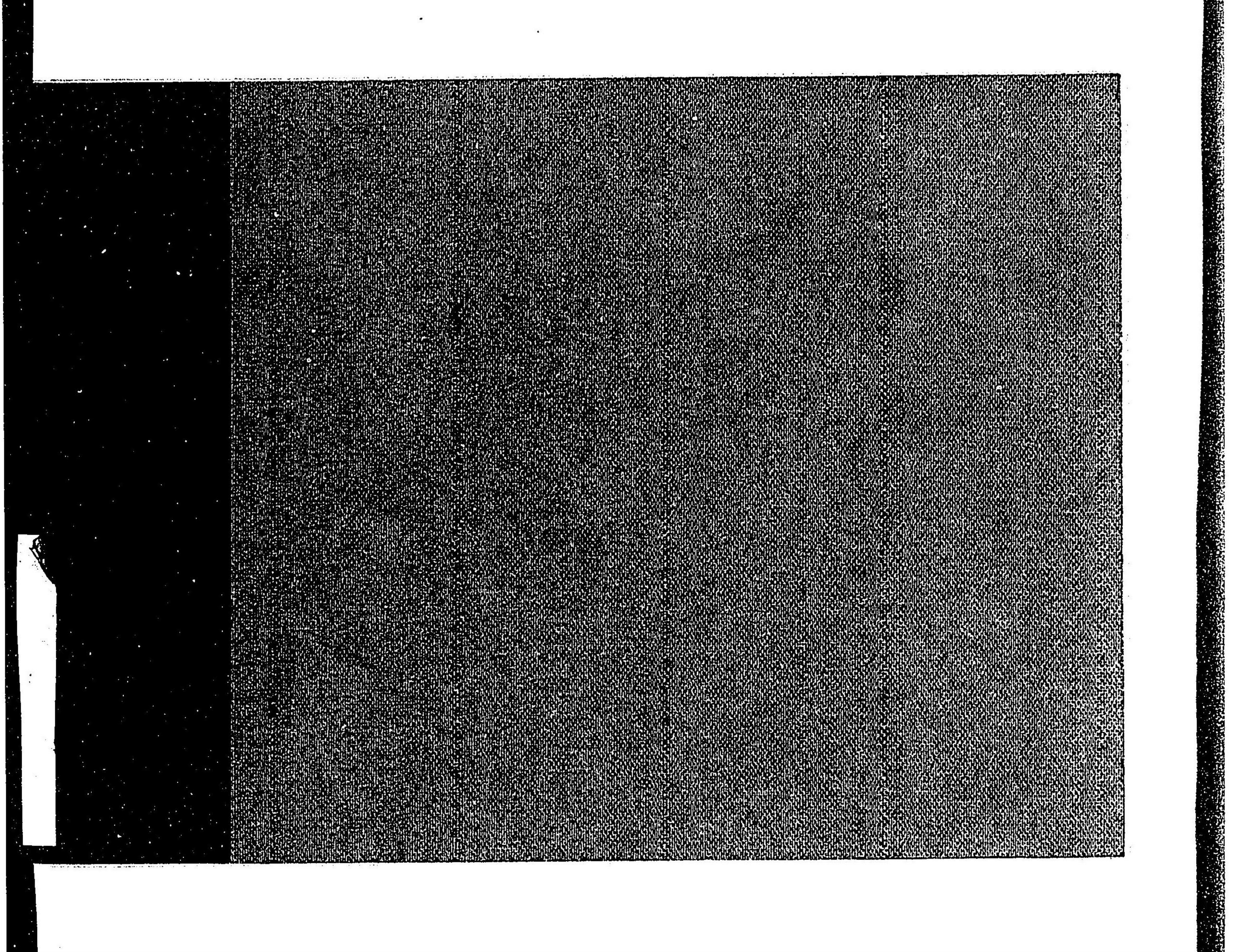
印刷者 都村善平

大阪市心島橋通順菜町北二ノ番邸

發行元 矢島謙進堂書局

版權所有

注意  
本書は各地書肆に賣捌有之候間最寄にて  
購求乞ふ●且類書數多あり發行元矢島謙  
進堂と著者上村雪翁とに注意ありたし



特23

419

尺八独案内

国立国会図書館

074490-000-2

特23-419

尺八独案内

上村 雪翁/著

M28

CEI-1805

